

## 第2節 新しいライフスタイルを求めて

# 満足ほど心配ほど これからは“遊び”を充実



生活に満足している人は6割、

心配ごとがある人も6割

暮らしのスタイルは人それぞれ。年齢によっても違ふし、結婚したり、子どもができてきたりと、嬉しいことも変わってきたり、もちろん、さまざまな心配ごとが増えたりする。

さて、今の生活にだいたい満足しているという人は市民の61%。この満足度は60年にピークを見せその後減少、62年にはこの10年で最低になってしまった。生活に何らかのかけりが出てきたのか、それとも多少のことでは満足できなくなってきたのだろうか。

一方、心配ごとのある人は市民の59%で、心配のタネは、一番多いのが老後・病気、以下子どもの教育、住宅という順番である。住宅問題は56年から60年まで減っていたのに、61年に増加し、62年にはインフレ・物価高を抜いて3位に浮上した。また、現在一番多い老後の心配もなお増加の傾向にある。

生活の満足感に関しては、女性の方が男性より全体的に高いという結果が出ていたが、性別年代別にもう少しくわしく見てみよう。

20代では男女とも心配ごとが少なく、女性は満足感が77%とたいへん高い。

ところが30代になると、女性の満足度が低くなり(55%)、逆に心配ごとのある人が非常に増える(71%)。では、心配の内容は何かという点、子どもの教育が圧倒的で、子ども中心の生活がうかがえる。そのほか住宅問題や物価高なども心配のタネ。一方、男性も30代になると、住宅を筆頭に子どもの教育、仕事など心配ごとが多くなる。男女とも悩み多き30代と言える。

40代で特徴的なのは、男性の満足感がとても低いこと(43%)、女性(63%)と比べ対照的だ。責任という言葉が重くのしかかってくる年代だから、とも考えられる。心配ごととは男性女性とも子どもの教育が一位だが、女性はそろそろ老後のことも心配し始める。

50代にさしかかると、男女とも満足度は60%を超え、心配の内容は老後・病気が一位になる。次いで男性はインフレ・物価高、そして女性は、家族や親戚のことが気にかかってくるようだ。

そして、60代ともなると、男性も女性も、満足感が69%ととても高くなる。心配ごとの内容はいぜん病気がトップではあるが、心配ごとはない、という人も半数に達する。

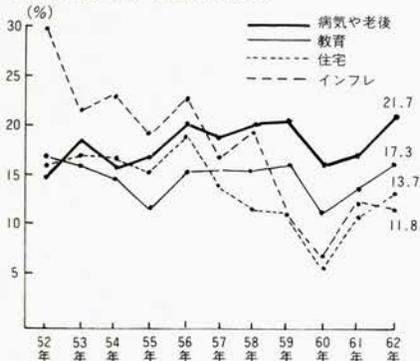
生活の重点はレジャー・余暇へ移行

暮らしにもっと満足するためには、これからどんなことに力を注いでいったらいいのか。国の調査では、3割の人が「レジャー・余暇生活」と答え、いわば「遊び」がトップになっている。男性の方が多いのは、遊ぶことが少ないからだろうか。この「レジャー・余暇生活」はここ数年急増しているが、2番目の「住生活」と3番目の「食生活」は少し減る傾向にある。

生活の重点が「衣・食・住」から「余暇」へと移行する、こういった流れは、そのまま「も

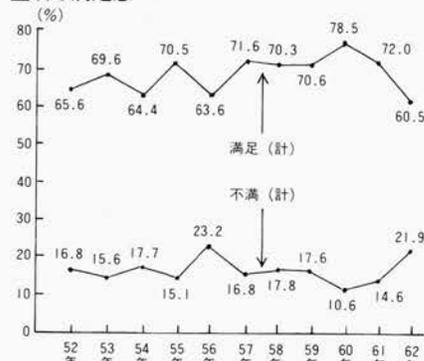
# Life Style

## ■心配ごとで「住宅」が3位に トップは依然「病気や老後」



横浜市「市民意識調査」

## ■60年をピークにかけりが見えはじめた？ 生活の満足感

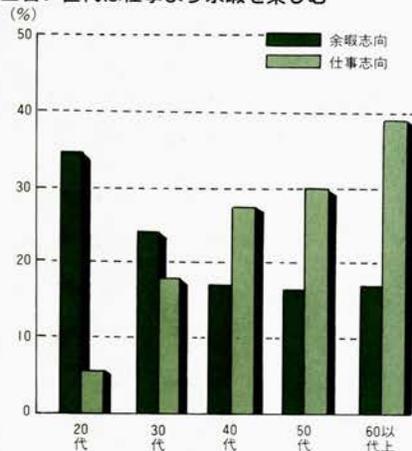


横浜市「市民意識調査」

の「心」から「心」への傾向でもある。心の豊かさか、ものの豊かさか、という二者択一に対して、最近では「心」と答える人が「もの」と答える人を大きく上回っている。

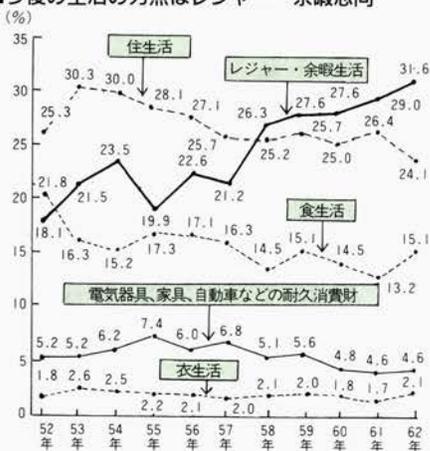
市の調査でも、今後の生活の重点をきいたと

## ■若い世代は仕事より余暇を楽しむ



横浜市「市民意識調査」(昭和62年度)

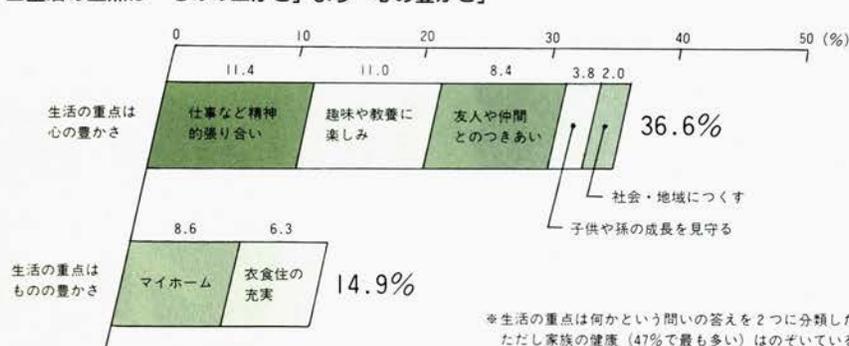
## ■今後の生活の力点はレジャー・余暇志向



総理府「国民生活に関する世論調査」(昭和62年)

ころ、「健康」がトップだったが、それ以外では、衣食住の充実よりも精神的な充実を求める人が多かった。衣食住などの「もの」から「心」の充実へという傾向が、ここからも読みとれる。また、余暇志向をリードするのは、男性より

## ■生活の重点は「ものの豊かさ」より「心の豊かさ」



※生活の重点は何かという問いの答えを2つに分類した。ただし家族の健康(47%で最も多い)はのそいている。

横浜市「市民意識調査」(昭和59年度)